

第4回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成13年7月5日(木)
2. 場 所 商工会議所 5F大ホール
3. 出席者 委 員(敬称略)池淵周一、澤井健二、木村 優、御勢久右衛門
近江昌司、荻野芳彦、北口照美、榊原和彦、伊藤章子
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長、 ほか
4. 議 事
 - (1) 河川環境の基本方針・基本理念のについて
 - 1) 基本理念・基本方針の資料の説明
 - 2) 各河川について整備の方針について資料の説明

○各委員から次の事項に関して意見があった

 - ・河川環境の基本理念・基本方針は、まず水量・水質があり、次に生態系の保全、そして景観であったり利用といった面があるといった分け方の方がすっきりするのではないか。
 - ・河川がどう都市と関わるかが重要である。整備手法は様々有るが、それぞれその場に合わせたデザインを考えること、また、範囲が河川に限られていないデザインを考えることが非常に重要である。護岸を緩勾配にすれば急な護岸と平らな部分を組み合わせた方がオープンスペースを作る点から意味がある場合もある。

→川幅があり、用地が確保されているところではゆったりさせることも親水性を向上させる一つの方法と考えている。また、実際の設計にあたっては個々の場所の都市側のことも含めた設計にしていく必要があると考えている。

 - ・歴史的環境の保全、復元についても十分検討する必要がある。
 - ・生駒いかるが圏域では竜田川が歴史的環境も一番よく保全すべき川である。竜田川といえば紅葉なので、紅葉を増やすべきであり、観光政策とタイアップして進めていくことも必要である。
 - ・大門池は信貴山の正門であり、参詣道である。そういうところは気をつけておくべき。
 - ・三代川は法隆寺の創立と絡む条理があるところであり、河川計画において気をつけておくべき。
 - ・本当の大自然と離れている子供たちに、いかに川を大事にしないといけないかということを考えさせるために、学校だけでなく、地域の方たち、行政の方たちから、ゲストティーチャーとしてでもいいからでてきていただきたい。

- ・ダム建設にあたっては、ダム下流の川の流量を確保することが必要。
 - ・浄化施設は維持管理のコストがかかるものの、水をきれいにするためには必要である。
 - ・岡崎川以外は浄化施設はいらないのか。
- 下水道の整備の進捗を考慮しても、水質が環境基準を満たさないと予測をしたため岡崎川で事業を進めている。
- ・河川環境について考えるとき、人間が見た河川環境としては、住民の方々からでている「川で泳げるように」であったり、「桜を植えて欲しい」「竜田川に紅葉を植えて欲しい」といった要望がでる。そういった意見も考慮してもらったらと思う。
 - ・人間以外から見た河川環境について検討すべきである。出水時に魚が逃げられるような場所づくりが必要である。魚が棲めるような川づくりを考えていく必要がある。
 - ・大和川の水質改善のために、下水道を整備すれば良いというものではなく、大和川は水が無いということも配慮しながら川づくりをしていくことが大事である。
 - ・子供が川底に近づける階段などの施設を計画的な距離間隔で設置する必要があるのではないか。
 - ・河川管理の全てを行政が負うことは税金の面でも非常に負担となる。ではなくみんなでゴミを拾いにいく。そういう発想が大事と思う。そのため、市民と河川管理者、行政との間を接着する仕組みが大事である。
- ・次回は、住民の方々からの意見も踏まえ修正した整備計画の原案について審議させていただければと思う。